

平成23年度

# 授業計画 (シラバス)

武蔵野学院大学

## 国際コミュニケーション学部

基礎科目：77ページ～106ページ

専門科目：107ページ～258ページ

資格関連科目：259ページ～302ページ

## シラバスの活用方法と見方

すべての科目について記載していますので、履修の際に活用して下さい。

### 授業の到達目標及びテーマ

- ・その科目では学生の皆さんにどこまで理解を求めるのか。その到達目標等が記載されています。授業レベルの目安になるものです。

### 授業概要

- ・どんな内容を扱う授業なのかが記載されています。

### 授業計画

- ・授業概要を具体的にそれぞれの授業でどう扱うのか、より具体的な計画が記載されています。事前準備とは授業に臨む学生の皆さんに求めるものです。

### オフィス・デイ

- ・直接、教科担任の先生と相談したいことがあれば、オフィス・デイを利用して下さい。事前に申し出るのがよいかもしれません。教員は出勤曜日や時間帯が異なります。職名に兼任講師と記載されている教員は出向日が1日の場合もありますので、注意してください。(出勤日は教務部前に掲示してあります)

### 評価基準・評価方法

- ・成績評価や単位取得に重要なところです。どのような基準で成績評価されるかの重要な記載事項です。(出席することは当たり前なので、特別に記載していません)

### 教科書

- ・指定されているものは、大学の購買部で販売致します。

### 最初の授業と試験前の授業に注意を！

- ・どの授業も最初の授業では、各担当教員により担当科目に関する方針が表明されますので、最初の1、2回を欠席しないようにして下さい。
- ・授業の後半ではレポート課題や試験に関する範囲の発表などがありますので、要注意です。
- ・まずは授業にしっかりと出て、授業の内容を理解し、自分を高めて下さい。

## 武蔵野学院大学 シラバス

### 基礎科目

文 化  
社 会  
科 学  
スポーツ  
総合科目

### 専門科目

言語コミュニケーション科目  
コンピュータコミュニケーション科目  
人間コミュニケーション理解関連科目  
日本理解関連科目  
国際情勢理解関連科目  
地域事情理解関連科目  
国際コミュニケーション実習  
国際コミュニケーション関連ゼミ

### 資格関連科目（卒業要件以外の科目）

教職に関する科目（英語科・情報科）  
プレゼンテーション実務士・上級情報処理士資格に関する科目  
日本語教員資格に関する科目

### ※略記号について

教職英……………教職課程・英語科に関連する科目  
教職情……………教職課程・情報科に関連する科目  
プレゼン……………プレゼンテーション実務士資格に関連する科目  
上情報……………上級情報処理士資格に関連する科目  
日本教……………日本語教員資格に関連する科目  
社福主……………社会福祉主事任用資格に関連する科目  
キャリア教育…就業力育成のための科目

| 科目名               | 文 学  | 職 名     | 専任講師        |
|-------------------|--|---------|-------------|
|                   |  | 教 員 名   | 高 橋 恵美子     |
| 授業形態              | 講義   | 単位数(期間) | 2単位(1・2年前期) |
| 授業の到達目標<br>及びテーマ  | <p>・日本の文学史を概観し、古来より育まれてきた日本独特の文化・習慣・意識などが、文学作品の中でどのようなことばで表現されているかを知り、昔と今を相対的に捉える視野を育てる。</p>   |         |             |
| 授業概要              | <p>・文学作品は、紙に文字を記すという文化が始まって以来、ひとびとの生活に添うように生まれてきた。その時代ごとにひとびとの欲求が変わるなかで、文学にも様々な種類の作品が現れる。日本の風土と文化、人間の心理を描く文学のひとつとして、中世の軍記物語に注目し、日本人の宗教観や美意識を読み取りたい。</p>  |         |             |
| 授業計画<br>(オフィス・デイ) | <p>事前準備：中世の歴史についてよく調べること</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 選択科目のため、初回は模擬授業。</li> <li>2 日本文学史と軍記物語について概説。</li> <li>3 「平家物語」日本中世の貴族と武士の文化を学び、「もののあはれ」を知る (1)</li> <li>4 「平家物語」日本中世の貴族と武士の文化を学び、「もののあはれ」を知る (2)</li> <li>5 「平家物語」日本中世の貴族と武士の文化を学び、「もののあはれ」を知る (3)</li> <li>6 「平家物語」日本中世の貴族と武士の文化を学び、「もののあはれ」を知る (4)</li> <li>7 「平家物語」日本中世の貴族と武士の文化を学び、「もののあはれ」を知る (5)</li> <li>8 「太平記」時代が変わる激動期に生きた人間の姿を知る (1)</li> <li>9 「太平記」時代が変わる激動期に生きた人間の姿を知る (2)</li> <li>10 「太平記」時代が変わる激動期に生きた人間の姿を知る (3)</li> <li>11 「太平記」時代が変わる激動期に生きた人間の姿を知る (4)</li> <li>12 「太平記」時代が変わる激動期に生きた人間の姿を知る (5)</li> <li>13 「信長記」戦国時代の軍記と文学のあり方を学ぶ (1)</li> <li>14 「信長記」戦国時代の軍記と文学のあり方を学ぶ (2)</li> <li>15 「信長記」戦国時代の軍記と文学のあり方を学ぶ (3)</li> </ol> <p>(オフィス・デイ：授業時間のある曜日。時間については要相談。)</p> |         |             |
| 評価基準<br>評価方法      | <p>出席は3分の2以上を原則。授業中の活動30%、レポート50パーセント、提出物等20パーセント、内60パーセント以上の評価を受けた者に単位を認定。</p>  |         |             |
| 教科書               | <p>プリントを適宜配付。</p>  |         |             |

| 科目名               | 歴 史   | 職 名     | 専任講師         |
|-------------------|---|---------|--------------|
|                   |   | 教 員 名   | 久保田 哲        |
| 授業形態              | 講義  | 単位数(期間) | 2単位 (1・2年前期) |
| 授業の到達目標<br>及びテーマ  | <p>・歴史は多面的なものである。世界史上類を見ないほど成功した日本の近代化について、多様な視点から考察していく。</p> <p>・自らの話ができなければ、友人の話をしっかりと受け止めて話すことができないように、自国の歴史を知らなければ他国の人々と対話することは難しい。本講義は、「近代化の優等生」から「東アジアの敗戦国」となり、復興していく日本の歩みを通史的に理解した上で、官僚制、外交、社会史、人物史、地方史といったさまざまなアプローチを通して、日本の近代史を立体的に理解していく。また、個別のテーマの研究手法・地方の歴史・資料の会読などについても触れる予定である。</p>   |         |              |
| 授業計画<br>(オフィス・デイ) | <p>事前準備：本講義に関連する本や論文、高校時代の教科書等を事前によく読むこと</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 歴史学とは何か</li> <li>2 開国・維新</li> <li>3 明治国家</li> <li>4 政党から軍部へ</li> <li>5 戦争・占領・講和</li> <li>6 官僚の生態学</li> <li>7 日本の内と外</li> <li>8 学歴貴族の栄光と挫折</li> <li>9 メディアと情報</li> <li>10 技術が変えた社会生活</li> <li>11 伝記研究①</li> <li>12 伝記研究②</li> <li>13 伝記研究③</li> <li>14 地方史</li> <li>15 歴史から学ぶこと</li> </ol> <p>(オフィス・デイ：月曜日。ただし、事前にお知らせ下さい)</p> |         |              |
| 評価基準<br>評価方法      | <p>3分の2以上の出席を原則。授業中の活動及び提出物(40%)、定期試験(60%)、内、60%以上の評価を受けた者に単位を認定する。</p>   |         |              |
| 教科書               | <p>教科書は使用せず、教材プリントを配布するほか、適宜参考書を紹介します。</p>  |         |              |

|                              |  |         |              |
|------------------------------|--|---------|--------------|
| 科目名                          | 民俗学  | 職名      | 教授           |
|                              |  | 教員名     | 林 猛          |
| 授業形態                         | 講義   | 単位数(期間) | 2単位 (1・2年後期) |
| 授業の到達目標<br>及びテーマ<br><br>授業概要 | <p>・日本人の身近な生活事実に関わる伝承的な習俗を学習し、民俗の変遷、その原質、原形の歴史的な再構成を理解することが目標でありテーマである。</p> <p>・この講義では、民俗学の研究方法や研究対象を明らかにしながら、民俗学の学的体系確立に大きな業績を残した柳田国男について学んでみる。又、稲作農耕文化に基盤を置く民俗を、稲作の社会と文化、人生儀礼、年中行事等、多面的な民俗文化の実像を明らかにしていき、日本の生活文化や伝統文化の価値を見直す。</p>  |         |              |
| 授業計画<br>(オフィス・デイ)            | <p>事前準備：参考書を事前によく読んでおくこと</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 民俗学のおこり</li> <li>2 柳田国男の民俗学 1</li> <li>3 柳田国男の民俗学 2</li> <li>4 柳田国男の民俗学 3</li> <li>5 柳田国男の民俗学 4</li> <li>6 常民の概念</li> <li>7 ハレとケの文化 1</li> <li>8 ハレとケの文化 2</li> <li>9 人生儀礼と民俗 1</li> <li>10 人生儀礼と民俗 2</li> <li>11 人生儀礼と民俗 3</li> <li>12 年中行事と民俗 1</li> <li>13 年中行事と民俗 2</li> <li>14 年中行事と民俗 3</li> <li>15 都市化と民俗</li> </ol> <p>(オフィス・デイ：木曜日、時間については要相談。事前にお知らせ下さい)</p> |         |              |
| 評価基準<br>評価方法                 | <p>3分の2以上の出席が原則、レポート100% (授業時の小レポート含)、内60%以上の評価を受けた者に単位を認定する。出席不良者で正当な欠席理由のある者には、追加レポートを課し、総合判断を加えることがある。</p>  |         |              |
| 教科書                          | <p>(参考書)「民俗学への招待」宮田登著 「柳田国男全集」柳田国男著</p>  |         |              |

| 科目名                      | 倫 理 学   |         | 職 名         | 兼任講師    |
|--------------------------|---|---------|-------------|---------|
|                          |   |         | 教 員 名       | 外 池 武 嗣 |
| 授業形態                     | 講義  | 単位数(期間) | 2単位(1・2年後期) |         |
| 授業の到達目標<br>及びテーマ<br>授業概要 | <p>・授業の到達目標は、「倫理学」とは何かを理解することにより、自らの生き方に向けた論理学思想の概要を中心として取り上げる。</p> <p>・現代は、善悪の基準をどこに求めればよいのか、何を理想とすればよいのか、どのように生きれば良いのか、といった問題が不明瞭になりがちな価値多様化の時代である。そのため多くの現代人は心の奥底でよりどころに欠け、不安な日々を過ごしている状況がみうけられる。こうした現代において、ギリシャ以降、現代にいたるまでの倫理学思想を概観し、生活世界を深く問い直していくことで、自らの人生を切り拓いていくための方策を受講者各自が模索することをめざしていく。</p>  |         |             |         |
| 授業計画<br>(オフィス・デイ)        | <p>事前準備：ヨーロッパの哲学・思想史を調べておくこと</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 倫理学とは何か</li> <li>2 古代ギリシャの倫理思想（ソクラテス・プラトン・アリストテレス）</li> <li>3 ヘレニズム世界の倫理観</li> <li>4 キリスト教と中世倫理観</li> <li>5 ルネサンスと近代倫理思想の誕生①</li> <li>6 ルネサンスと近代倫理思想の誕生②</li> <li>7 近代倫理学の完成（カント・ヘーゲル）</li> <li>8 善とは何か(1)―自己主張と自律</li> <li>9 善とは何か(2)―自由論の展開</li> <li>10 善とは何か(3)―慣習・礼儀</li> <li>11 善とは何か(4)―自己と道徳</li> <li>12 善とは何か(5)―道徳と法律</li> <li>13 現代倫理学と青年</li> <li>14 青年と道徳的価値</li> <li>15 人生を切り拓くために</li> </ol> <p>(オフィス・デイ：金曜日、時間については要相談。)</p> |         |             |         |
| 評価基準<br>評価方法             | <p>出席は3分の2以上を原則。授業中の活動40%、試験40%、提出物等20%、内60%以上の評価を受けた者に単位を認定する。定期試験を実施するので、必ず受験のこと。なお、出席不良者及び試験結果不良者に追レポートを課し、総合判断に加えることがある。</p>  |         |             |         |
| 教科書                      | <p>プリント等を適宜配付する。また、必要に応じて参考書を紹介</p>   |         |             |         |

教職英・教職情

| 科目名               | 日本国憲法   | 職名      | 専任講師        |
|-------------------|---|---------|-------------|
|                   |   | 教員名     | 神野 潔        |
| 授業形態              | 講義  | 単位数(期間) | 2単位(1・2年前期) |
| 授業の到達目標及びテーマ      | <p>・日本国憲法の掲げる理念と現実を明らかにする。判例や通説による憲法解釈を紹介するだけでなく、日本国憲法自体の持つ問題点を指摘し、わが国にとってのあるべき憲法の姿を考える。</p>  |         |             |
| 授業概要              | <p>・方法としては、比較憲法的考察及び憲法政治学的考察を特徴とする。主な授業項目は、日本国憲法への視座、天皇制、戦争の放棄、憲法改正、人権の歴史と思想、自由と権利、代表議会制、司法制度等々である。</p>   |         |             |
| 授業計画<br>(オフィス・デイ) | <p>事前準備：時事ニュースに関心を持つこと</p> <p>○はじめに</p> <p>1 憲法を学ぶ意義</p> <p>○歴史的視点から</p> <p>2 明治憲法とその時代</p> <p>3 前文を読み直す</p> <p>4 平和主義の理想と現実</p> <p>5 砂川事件と憲法改正論議</p> <p>6 天皇制に関する諸問題</p> <p>○判例を読む</p> <p>7 幸福追求権と公共の福祉</p> <p>8 法の下での平等とは何か</p> <p>9 信教の自由と政教分離</p> <p>10 表現の自由と「宴のあと」</p> <p>11 教育を受ける権利と家永裁判</p> <p>○トピック</p> <p>12 生存権、労働基本権</p> <p>13 国務請求権、参政権</p> <p>14 三権分立と司法制度改革</p> <p>○総括</p> <p>15 憲法とは何か</p> <p>(オフィス・デイ：火曜日 時間については、事前に相談に応じます)</p> |         |             |
| 評価基準<br>評価方法      | <p>出席は3分の2以上を原則とする。定期試験70%+授業内レポート30%、うち60%以上の評価を受けた者の単位を認定する。</p>  |         |             |
| 教科書               | <p>授業内でプリントを配布します。</p>  |         |             |

| 科目名               | 現代社会と法  | 職名      | 専任講師        |
|-------------------|---|---------|-------------|
|                   |   | 教員名     | 鈴木陽子        |
| 授業形態              | 講義  | 単位数(期間) | 2単位(2・3年前期) |
| 授業の到達目標及びテーマ      | <ul style="list-style-type: none"> <li>・一般教養としての「法学」の知識の習得と、法的なもの考え方を身につけることを目標とする。現代の市民生活にとっていかに法が必要不可欠なものであるかを、判例や法をめぐる諸問題を織り込みながら考えていきたい。</li> </ul>   |         |             |
| 授業概要              | <ul style="list-style-type: none"> <li>・まず総論として、方途は何かについて法体系やさまざまな法を概観することから始める。そのうえで、日本国憲法で保障されている権利にはどのようなものがあるか、また統治機構の構成と権限について判例に触れながら講義をしていく。</li> </ul>  |         |             |
| 授業計画<br>(オフィス・デイ) | <p>事前準備：教科書を事前に読んでおくこと</p> <p>1 法とは何か</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. はじめに 「法」と「法律学」</li> <li>2. 法の体系・内容</li> <li>3. 市民社会の法主体</li> </ol> <p>2 社会生活と法</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>4. 企業活動・消費者保護</li> <li>5. 労働に関する法</li> <li>6. 社会保障と法</li> <li>7. 教育と法</li> </ol> <p>3 日本国憲法</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>8. 基本的人権1 人権総論・法の下での平等</li> <li>9. 基本的人権2 精神的自由・人身の自由・経済的自由</li> <li>10. 基本的人権3 国務請求権・参政権・社会権</li> <li>11. 統治機構1 国会</li> <li>12. 統治機構2 内閣</li> <li>13. 統治機構3 司法</li> <li>14. 地方分権と自治体行政</li> <li>15. おわりに</li> </ol> <p>(オフィス・デイ：火・水・土曜日。時間については要相談。事前にお知らせください)</p> |         |             |
| 評価基準<br>評価方法      | <p>出席3分の2以上を原則とし、レポート及び提出物30%、試験70%、内60%以上の評価を受けた場合に、単位を認定する。なお、出席不良者及び提出物不良者に追レポートを課し、総合判断に加えることがある。</p>   |         |             |
| 教科書               | 高野真澄「現代の法と人権」(有信堂高文社、1,800円)  |         |             |

| 科目名                      | 現代社会と法   | 職名      | 専任講師        |
|--------------------------|--|---------|-------------|
|                          |  | 教員名     | 神野 潔        |
| 授業形態                     | 講義   | 単位数(期間) | 2単位(2・3年後期) |
| 授業の到達目標<br>及びテーマ<br>授業概要 | <p>・「法とは何か」より始まり「法の目的」「法の種類」「法の効力」「法の解釈」等の総論部分を確認した上で、民法関係(財産法と家族法) 刑法関係、社会・経済法関係、更に国際法等各論部分については、主に具体的事例を中心に現代社会において法がどのように機能しているかを理解する。ディスカッション等学生の積極的な授業参加を促したい。</p>  |         |             |
| 授業計画<br>(オフィス・デイ)        | <p>事前準備：専門用語を事前によくチェックしておくこと</p> <p>○はじめに</p> <p>1 法学とその系譜</p> <p>○法を理解する</p> <p>2 法の存在形式</p> <p>3 法の分類</p> <p>4 法の効力</p> <p>5 法の解釈</p> <p>○憲法を考える</p> <p>6 憲法制定史を捉え直す</p> <p>7 現代の憲法問題</p> <p>○民法を捉える</p> <p>8 近代私法の生成と変遷</p> <p>9 財閥関係と法</p> <p>10 家族関係と法</p> <p>11 知的所有権の世界</p> <p>○国際法を知る</p> <p>12 国際法の形態</p> <p>13 平和と法、戦争と法</p> <p>14 地球環境と法</p> <p>○総括</p> <p>15 法とは何か</p> <p>(オフィス・デイ：火曜日 時間については、事前に相談に応じます)</p> |         |             |
| 評価基準<br>評価方法             | <p>出席3分の2以上を原則とする。定期試験70%+授業内レポート30%、うち60%以上の評価を受けた者の単位を認定する。</p>  |         |             |
| 教科書                      | <p>(教科書) なし(授業内でプリントを配布します)</p> <p>(参考書) 判例法学(第4版)(有斐閣、2005)</p>   |         |             |

| 科目名                      | 現代社会と政治  | 職名      | 兼任講師        |
|--------------------------|--|---------|-------------|
|                          |  | 教員名     | 茂野隆晴        |
| 授業形態                     | 講義   | 単位数(期間) | 2単位(1・2年前期) |
| 授業の到達目標<br>及びテーマ<br>授業概要 | <p>・先ずもって、“はじめて学ぶ政治学”ということから、新聞等の資料を用いて、日々に生起する政治現象の観察力を養うことを目的とする。</p> <p>授業への積極的な参加の姿勢を期待します。</p> <p>・授業では前述のような見地から、現代政治の基礎的な事項といえる統治機構、政党政治、地方自治の問題点、福祉国家への課題、行政国家現象等を逐次下記のように進めていく。</p> <p>その際、成るだけ時事問題などに照らし、単純化し、分かり易く講義を行いたい。</p>  |         |             |
| 授業計画<br>(オフィス・デイ)        | <p>事前準備：専門用語等をよくチェックしておくこと。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 権力分立と抑制均衡・国民主権</li> <li>2 議会と行政府・立法過程</li> <li>3 内閣総理大臣と内閣・立法国家から行政国家・大きな政府と小さな政府</li> <li>4 選挙制度の諸類型と日本の選挙制度の問題点・政治の大衆化</li> <li>5 政党と政党制</li> <li>6 現代の政治過程と利益団体</li> <li>7 政治的リーダーシップ(戦前・戦後の政治家像を中心として)</li> <li>8 地方自治と市民参加</li> <li>9 高齢化社会と福祉国家</li> <li>10 政府の干渉からの自由</li> <li>11 イデオロギーとは何か。宗教と政治・現代の政治思想の潮流</li> <li>12 国家と市民社会</li> <li>13 国際連合と集団安全保障</li> <li>14 日本のテロリズムと世界のテロリズムの温床</li> <li>15 保守政党の統治体制・日本政治の現状</li> </ol> <p>(オフィス・デイ：木曜日の昼食時及び4時限の終了後とします。)</p> |         |             |
| 評価基準<br>評価方法             | <p>平常点(授業中の活動)、定期試験により総合的に行う。この場合、前者40%、後者60%を目安としています。</p>  |         |             |
| 教科書                      | <p>(教科書) 特に指定しませんが、学期中に各自が任意で選んだ「政治学」の入門書を随時、読み込んで欲しい。</p> <p>(参考書) 適時プリントを配布します。</p>  |         |             |

| 科目名                          | 現代社会とビジネス  | 職名      | 助教             |
|------------------------------|--|---------|----------------|
|                              |  | 教員名     | 柴田有祐           |
| 授業形態                         | 講義   | 単位数(期間) | 2単位(1・2年前期・後期) |
| 授業の到達目標<br>及びテーマ<br><br>授業概要 | <p>・ビジネスを理解するためには経済学の知識が不可欠である。この授業の到達目標は、経済学の概念や考え方を学び、それを利用してビジネスの仕組みや戦略について理解することである。</p> <p>・授業では、現実のビジネスを理解するために必要な経済学の分析ツールについて解説する。その際、吉野家やセブンイレブンなど身近な企業の事例を数多く取り上げることによって、受講者が現実のビジネスを理論と実践の両面から理解することを目指す。</p>   |         |                |
| 授業計画<br>(オフィス・デイ)            | <p>事前準備：下記の参考書を事前に読んでおくこと（対応箇所は事前にお知らせします）</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 ビジネス・エコノミクスとは</li> <li>2 経済社会のしくみ</li> <li>3 価格戦略(1) 需要の価格弾力性</li> <li>4 価格戦略(2) 様々な価格差別</li> <li>5 価格戦略(3) 非線形価格</li> <li>6 流通(1) 医薬品販売戦略</li> <li>7 流通(2) 流通の役割</li> <li>8 エイジェンシー理論(1) インセンティブとリスク</li> <li>9 エイジェンシー理論(2) モラルハザードと逆選択</li> <li>10 エイジェンシー理論(3) ペイオフ</li> <li>11 ゲーム理論とビジネス(1) 囚人のジレンマ</li> <li>12 ゲーム理論とビジネス(2) 繰り返しと協調</li> <li>13 ゲーム理論とビジネス(3) ケーススタディ</li> <li>14 グローバル・ビジネス(1) 通商摩擦</li> <li>15 グローバル・ビジネス(2) 為替レートとビジネス</li> </ol> <p>(オフィス・デイ：水曜日。時間については要相談)</p> |         |                |
| 評価基準<br>評価方法                 | <p>原則として出席が3分の2以上の者を評価の対象とする。授業中に行う小テスト20%、定期試験80%、そのうち60%以上の評価を受けた者の単位を認定する。</p>  |         |                |
| 教科書                          | <p>(教科書) プリントを配付する。<br/>(参考書) 伊藤元重「ビジネス・エコノミクス」日経新聞社、2004年。</p>  |         |                |

| 科目名                          | 現代社会と情報   | 職名      | 准教授         |
|------------------------------|---|---------|-------------|
|                              |   | 教員名     | 木川 裕        |
| 授業形態                         | 講義  | 単位数(期間) | 2単位(2・3年後期) |
| 授業の到達目標<br>及びテーマ<br><br>授業概要 | <p>・授業の到達目標は「現代社会と情報」に関する諸問題を把握し、解決のための基礎的な理解を深めることにある。</p> <p>・現代社会において、コンピュータにまつわる対立が顕著になってきている。本講義では、これら立場の違う問題について、対立するそれぞれの立場を理解した上で、なぜ一方を排除するのかを学生に求める。そのための基礎知識として、法や論理、そしてコンピュータの役割を学んでいく。</p>  |         |             |
| 授業計画<br>(オフィス・デイ)            | <p>事前準備：新聞・インターネット等で情報に関する問題をチェックしておくこと</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 情報化社会と私たちの社会</li> <li>2 デジタル社会における情報と法</li> <li>3 行政情報と問題点</li> <li>4 情報社会と個人情報保護</li> <li>5 プライバシー対情報アクセス</li> <li>6 言論の自由対インターネット規制</li> <li>7 デジタル社会における刑法的保護</li> <li>8 インターネットと刑事事件</li> <li>9 電子契約における法的諸問題</li> <li>10 知的財産権とは何か</li> <li>11 インターネット社会における著作権</li> <li>12 インターネットをめぐる著作権問題</li> <li>13 インターネットとセキュリティ</li> <li>14 情報論理とは何か</li> <li>15 現代社会における情報の役割</li> </ol> <p>(オフィス・デイ：水曜日、時間については要相談。事前にお知らせ下さい。)</p> |         |             |
| 評価基準<br>評価方法                 | <p>3分の2以上の出席を原則。授業中の活動及び提出物(50%)、プレゼン・課題等(50%)、うち60%以上の評価を受けた者に単位認定する。(総合的に評価する)</p>  |         |             |
| 教科書                          | <p>教材プリントを講義中に配布。<br/>(参考書)「ジュリストNo.1215 電子化時代の情報と法」(有斐閣)</p>   |         |             |

|                          |   |         |             |
|--------------------------|---|---------|-------------|
| 科目名                      | 環境と科学   | 職名      | 兼任講師        |
|                          |   | 教員名     | 島村英紀        |
| 授業形態                     | 講義  | 単位数(期間) | 2単位(2・3年前期) |
| 授業の到達目標<br>及びテーマ<br>授業概要 | <p>・人類は地球にある資源を利用してきたため、地球のさまざまな場所に出ている問題の現状と要因について考え、対策について解説する。</p> <p>・人類は地球にある資源を利用して、高度な文明と快適な生活を築き上げて来た。しかし、その一方、健康を脅かす環境問題が続々と忍び寄って来ている。そして、自然破壊や温暖化など、地球の変化が起きている。いままで快適な文明を追い求めてきて、使える資源を使いたいだけ使い、廃棄物のことをあまり考えずに来たからである。講義の最後に「かけがえない地球をどうしたらよいのか」について、皆と討論の機会を持つ。</p>   |         |             |
| 授業計画<br>(オフィス・デイ)        | <p>事前準備：ニュースに関心を持つこと</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 地球の成り立ち</li> <li>2 地球の中心から大気の頂上まで</li> <li>3 人類の生活の舞台</li> <li>4 地球の資源は有限</li> <li>5 人類の誕生は地球の歴史では、ごく新しい</li> <li>6 増えていった人類</li> <li>7 人類が使った資源、変えていった自然</li> <li>8 人間の文明と地球</li> <li>9 自然災害は地球の息吹き</li> <li>10 日本の自然を作った力</li> <li>11 生活の向上と引き換えの自然破壊</li> <li>12 人類が出している廃棄物</li> <li>13 二酸化炭素とオゾンホール</li> <li>14 未来への処方箋</li> <li>15 (自由討論) 地球の明日を考える</li> </ol> <p>(オフィス・デイ：水曜日11時～午後4時)</p> |         |             |
| 評価基準<br>評価方法             | <p>出席は3分の2以上が原則。授業中の活動40%、レポート60%。うち60%以上の評価のものに単位を認定するが、総合判断も加える。</p>  |         |             |
| 教科書                      | <p>「地球温暖化ってなに」島村英紀(彰国社)2,100円</p>   |         |             |

| 科目名                      | 環境と科学   | 職名      | 教授          |
|--------------------------|---|---------|-------------|
|                          |   | 教員名     | 福田直         |
| 授業形態                     | 講義  | 単位数(期間) | 2単位(2・3年前期) |
| 授業の到達目標<br>及びテーマ<br>授業概要 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・自然環境の本質と歴史、変化のしくみについて総合的に理解し、人類活動と地球環境について科学的に考えることのできる視座を獲得することを目標とする。</li> <li>・地球環境の成り立ちとしくみ、自然生態系のシステムを環境と人間活動との関係を科学的に捉えて学習する。そして、様々な地球環境問題の現状と課題を知るとともに身近な環境問題とその解決方法について調査・発表を通して考えていく。</li> </ul>   |         |             |
| 授業計画<br>(オフィス・デイ)        | <p>事前準備：ニュースに関心を持つこと</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 環境とは、宇宙の誕生</li> <li>2 宇宙の歴史(恒星進化・銀河)、太陽系</li> <li>3 地球の歴史—地球誕生と生物進化—</li> <li>4 地球システム—その成り立ちとしくみ—</li> <li>5 人間活動と自然生態系</li> <li>6 オゾン層破壊、酸性雨</li> <li>7 地球温暖化</li> <li>8 熱帯林喪失、砂漠化</li> <li>9 野生生物の絶滅危機と生物多様性</li> <li>10 気象現象とその変動</li> <li>11 資源・エネルギー問題を考える</li> <li>12 人口増大と食料問題を考える</li> <li>13 ゴミ・廃棄物問題を考える</li> <li>14 地球環境と生命・人類、文明(科学・技術)</li> <li>15 地球環境の未来と科学</li> </ol> <p>(オフィス・デイ：月曜日午前11時～午後4時)</p> |         |             |
| 評価基準<br>評価方法             | 出席は3分の2以上が原則。授業中の活動40%、レポート60%以上の評価を得た場合に単位を認定する。   |         |             |
| 教科書                      | 授業者の配布する資料による。参考書等は適宜授業の中で紹介する。   |         |             |

| 科目名                      | 生活と自然  | 職名      | 兼任講師        |
|--------------------------|--|---------|-------------|
|                          |  | 教員名     | 川西幸子        |
| 授業形態                     | 講義   | 単位数(期間) | 2単位(1・2年前期) |
| 授業の到達目標<br>及びテーマ<br>授業概要 | <p>・身近な生活の中で自然とはどういう存在なのか、自然を見る目と心を持つことを目標とし、「現在の自然を見つめ、将来の生活を地球規模で考える」をテーマとする。</p> <p>・人工物に囲まれ便利な生活の中に、自然を実感し、それに関わる動植物の営みを理解することにより、より心豊かに生きることが出来る。植物を中心に、色々な角度から、自然を科学の目で見て行く。授業は出来る限り映像を取り入れて、皆で考察していきたい。</p>   |         |             |
| 授業計画<br>(オフィス・デイ)        | <p>事前準備：自然に関するニュースに関心を持つこと</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 自然とは何か。自然科学の考え方。どうすれば自然が見えてくるのか。</li> <li>2 地球史における「生命体」昆虫の情報戦略</li> <li>3 海の大自然－1「海・青き大自然」「深海探検」</li> <li>4 海の大自然－2「海の不思議な世界－メタンハイドレート」</li> <li>5 森林の生態 ①「森の生い立ち」遷移、極相林 ②「森の生物達の連携」</li> <li>6 緑のめぐみシリーズ－1 ①自然に親しむ…変わった形や機能を持つ植物例<br/>②生物間に働く情報伝達 ③植物成分における光の有効利用</li> <li>7 緑のめぐみシリーズ－2 ④環境浄化における植物の効果</li> <li>8 緑のめぐみシリーズ－3 ⑤特殊空間緑化の効果 ⑥香りアメニティ</li> <li>9 緑のめぐみシリーズ－4 ⑦その他、植物生化学…色、成長等</li> <li>10 生物多様性問題</li> <li>11 身近な自然保護問題「学院の森」の自然観察データ</li> <li>12 「学院の森」の観察会</li> <li>13 杜の観察発表会</li> <li>14 「里山の自然」「ゴミ分別・里山再生」</li> <li>15 「都会の里山(板橋区)、環境イベント(狭山市)</li> </ol> <p>(オフィス・デイ：水曜日、時間については要相談。事前にお知らせ下さい)</p> |         |             |
| 評価基準<br>評価方法             | <p>出席は3分の2以上を原則。授業中の活動40%、レポート40%、小テスト、提出物等20%、内60%以上の評価を受けた者に単位を認定する。なお、出席不良者およびレポート内容の結果不良者に追レポートを課し、総合判断に加えることがある。</p>  |         |             |
| 教科書                      | <p>(教科書) 教材プリントを講義中に配付<br/>(参考書) 適宜紹介</p>  |         |             |

| 科目名                  | 生活と科学  | 職名      | 兼任講師        |
|----------------------|--|---------|-------------|
|                      |  | 教員名     | 川西幸子        |
| 授業形態                 | 講義   | 単位数(期間) | 2単位(1・2年後期) |
| 授業の到達目標及びテーマ<br>授業概要 | <p>・生活に活かす科学の考え方を理解し、科学的な見方が出来るようになることをめざして、「生活に活かす新しい科学と食の安全問題を考える」をテーマとする。</p> <p>・現代の豊かな生活には科学の進歩が目覚しく反映している。しかし食生活においては、最も重要な安全性が脅かされている。各問題について、出来るだけ新しい研究情報を加えて解説する。健康な食生活を問い直し、皆と共に考えて行きたい。毎回、食の問題と他分野の新しい科学情報との2本立てで進める。</p>   |         |             |
| 授業計画<br>(オフィス・デイ)    | <p>事前準備：食品に関するニュースに関心を持つこと</p> <p>1 生活に活かす科学 I 科学の考え方 II 生活に係わる新しい科学の話題</p> <p>2 食の安全問題</p> <p>A) 非意図的要因問題 ① 微生物・原虫の食中毒<br/>② 有害元素汚染…有機水銀・カドミウムなど<br/>③ 有害有機物汚染…ダイオキシンなど<br/>④ 多因性内分泌攪乱化学物質<br/>⑤ 農薬・動物用医薬品<br/>⑥ 食物アレルギー<br/>⑦ BSE<br/>⑧ 放射性物質・異物混入汚染</p> <p>B) 人為的要因問題 ⑨ 食品添加物、サプリメント・健康食品の効果と安全性<br/>⑩ 遺伝子組み換え作物・放射線照射処理</p> <p>C) 対策 ⑪ HACCP(危害分析及び重要管理点)システム<br/>⑫ 食品安全基本法・食品安全委員会・リスクアナリシス・食品表示<br/>⑬ 低農薬・無農薬・有機農法食品有機栽培法の取り組み<br/>⑭ 討論「健康な食生活を考える」</p> <p>(オフィス・デイ：水曜日。時間については要相談。事前にお知らせ下さい)</p> |         |             |
| 評価基準<br>評価方法         | <p>出席は3分の2以上を原則。授業中の活動40%、レポート40%、小テスト、提出物等20%、内60%以上の評価を受けた者に単位を認定する。なお、出席不良者およびレポート内容の結果不良者に追レポートを課し、総合判断に加えることがある。</p>  |         |             |
| 教科書                  | <p>(教科書) 教材プリントを講義中に配付<br/>(参考書) 適宜紹介</p>  |         |             |

教職情・上情報

| 科目名                      | コンピュータと情報数学   | 職名      | 専任講師        |
|--------------------------|---|---------|-------------|
|                          |   | 教員名     | 角田 牧        |
| 授業形態                     | 講義  | 単位数(期間) | 2単位(1・2年前期) |
| 授業の到達目標及びテーマ<br><br>授業概要 | <p>・コンピュータによる情報処理を理解するための数学的基礎を確立し、コンピュータ内部で処理されるデータおよびその演算について理解する。また、問題解決のための情報の処理手順をコンピュータの動作を踏まえて表現するアルゴリズムの基礎を確立する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● コンピュータ内部での演算処理の基本原則</li> <li>● ブール代数</li> <li>● コンピュータの計算原理</li> <li>● アルゴリズムとその表現</li> </ul>   |         |             |
| 授業計画<br>(オフィス・デイ)        | <p>事前準備：高校の数学の基礎を復習しておくこと</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 情報処理とコンピュータ -コンピュータの演算-</li> <li>2 2進数・10進数・16進数による数の表現</li> <li>3 整数と実数 -コンピュータの内部表現-</li> <li>4 集合とその演算</li> <li>5 論理演算</li> <li>6 ブール代数</li> <li>7 ブール代数と論理回路</li> <li>8 ブール代数の計算</li> <li>9 コンピュータの計算原理① -なぜコンピュータは足し算できるのか-</li> <li>10 コンピュータの計算原理② -なぜコンピュータは四則計算できるのか-</li> <li>11 コンピュータの計算原理③ -ビット演算-</li> <li>12 情報処理とアルゴリズム</li> <li>13 アルゴリズムの基本構造 (逐次処理・選択処理・繰り返し処理)</li> <li>14 アルゴリズム表現①</li> <li>15 アルゴリズム表現②</li> </ol> <p>(オフィス・デイ：毎週火曜日・水曜日・木曜日。面談時間については事前相談のこと。sumita@cameo.plala.or.jp)</p> |         |             |
| 評価基準<br>評価方法             | <p>出席点40点、課題等20点、試験40点で評価します。出席点は欠席1回につき5点減点、遅刻3回で欠席1回相当により計算します。試験は筆記試験を行います。</p>  |         |             |
| 教科書                      | <p>教材等の資料は学内ネットワークの共有フォルダを経由して配布します。</p>  |         |             |

| 科目名               | 保健体育  | 職名      | 教授          |
|-------------------|---|---------|-------------|
|                   |   | 教員名     | 輪嶋直幸        |
| 授業形態              | 講義  | 単位数(期間) | 2単位(1・2年前期) |
| 授業の到達目標<br>及びテーマ  | <p>・本授業①「生活習慣病と運動」、②「日常生活のかたよった癖と姿勢」と2つのテーマで自分自身のからだについて学び、健康なからだのために予防、改善減量、体力の増進を実践する。</p>  |         |             |
| 授業概要              | <p>・すべての生物は成長、成熟しそして老いていく。人間の場合はいずれのデータをみても10～20歳の年代で身体的な発育や発達が完成して、その頂点に達し、20代後半から老化が始まって徐々に衰退していく。健康の三原則「栄養」「運動」「休養」、これらが過不足なく満たされていて、かつバランスがとれていることが健康の維持に欠かせない。</p>   |         |             |
| 授業計画<br>(オフィス・デイ) | <p>事前準備：健康や保健に関するニュースに注目しておくこと</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 オリエンテーション</li> <li>2 健康の三原則 ①栄養</li> <li>3 健康の三原則 ②運動</li> <li>4 健康の三原則 ③休養</li> <li>5 生活習慣病と運動 ①生活習慣病Ⅰ</li> <li>6 生活習慣病と運動 ②生活習慣病Ⅱ</li> <li>7 生活習慣病と運動 ③運動療法Ⅰ</li> <li>8 生活習慣病と運動 ④運動療法Ⅱ</li> <li>9 生活習慣病と運動 ⑤まとめ・小テスト</li> <li>10 日常生活のかたよった癖と姿勢 ①かたよった癖とは</li> <li>11 日常生活のかたよった癖と姿勢 ②自分の身体動きますか</li> <li>12 日常生活のかたよった癖と姿勢 ③生体の歪みを正す</li> <li>13 日常生活のかたよった癖と姿勢 ④キャラネティクス・エクササイズ</li> <li>14 日常生活のかたよった癖と姿勢 ⑤まとめ・小テスト</li> <li>15 自分自身の身体についてまとめる</li> </ol> <p>(オフィス・デイ：月曜日。時間については要相談。)</p> |         |             |
| 評価基準<br>評価方法      | <p>出席は3分の2以上を原則。授業中の活動60%及び提出物等40%、うち60%以上で総合評価の上、単位を認定する。</p>  |         |             |
| 教科書               | <p>(教科書) プリントを配布する<br/>(参考書) 特になし</p>   |         |             |

教職英・教職情

| 科目名                      | スポーツ 1   | 職 名     | 教 授           |
|--------------------------|--|---------|---------------|
|                          |  | 教 員 名   | 輪 嶋 直 幸       |
| 授業形態                     | 実習   | 単位数(期間) | 2 単位 (1・2年前期) |
| 授業の到達目標<br>及びテーマ<br>授業概要 | <p>・本授業は球技スポーツ（テニス、バレーボール、バスケットボール等）を題材に生涯スポーツとなりうる実践を通して指導していきます。</p> <p>・かつての我が国のスポーツは、競技力向上一辺倒の競技スポーツであった。しかし、スポーツは今や一部選手の独占物ではなくなり、国民すべての人々が楽しみたいと願っているものになりつつある。このことは「みんなのスポーツ」「いつでも、どこでも、だれでも」がスポーツを楽しみ、運動不足を痛感し、健康、体力を保つための自衛手段として、スポーツの大衆化は、もはや動かしたい事実である。</p>   |         |               |
| 授業計画<br>(オフィス・デイ)        | <p>事前準備：体調を万全に整え、運動のできる服装を準備</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 オリエンテーション (ボール遊び)</li> <li>2 バレーボール型 ①バレーボール</li> <li>3 バレーボール型 ②ソフトバレーボール</li> <li>4 バレーボール型 ③ドッチボール</li> <li>5 バスケットボール型 ①バスケットボール</li> <li>6 バスケットボール型 ②ポートボール</li> <li>7 バスケットボール型 ③ミニサッカー</li> <li>8 テニス型 ①テニス</li> <li>9 テニス型 ②ソフトテニス</li> <li>10 テニス型 ③インディアカー</li> <li>11 ゴルフ型 ①ミニゴルフ</li> <li>12 ゴルフ型 フリスビーゴルフ</li> <li>13 ソフトボール型 ①ソフトボール</li> <li>14 ソフトボール型 ②キックベースボール</li> <li>15 実技テスト</li> </ol> <p>(オフィス・デイ：月曜日。時間については要相談。)</p> |         |               |
| 評価基準<br>評価方法             | <p>出席は3分の2以上を原則。授業中の活動60%及び提出物等40%、うち60%以上で総合評価の上、単位を認定する。</p>   |         |               |
| 教科書                      | <p>(教科書) プリントを配布する<br/>(参考書) 特になし</p>  |         |               |

教職英・教職情

| 科目名                      | スポーツ 2   | 職名      | 兼任講師        |
|--------------------------|--|---------|-------------|
|                          |  | 教員名     | 伴 好彦        |
| 授業形態                     | 実習   | 単位数(期間) | 2単位(2・3年集中) |
| 授業の到達目標<br>及びテーマ<br>授業概要 | <p>・授業の到達目標は、スノースポーツの技術およびマナーの習得にあり、テーマとしてスキー、スノーボード、ネイチャーを取り上げる。</p> <p>・本授業では、北海道キロロレジデンスを利用してスキー、スノーボード、ネイチャーツアーなど生涯スポーツとなりうる様々なスノースポーツを取り上げる。基礎中心の内容にとらわれることなく、様々な形態のスノースポーツを体験することで、各場面でのマナーや幅の広い技術の習得を目標とする。</p>   |         |             |
| 授業計画<br>(オフィス・デイ)        | <p>事前準備：専門用語等を事前によくチェックしておくこと</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 スノースポーツとケガ</li> <li>2 用具の知識</li> <li>3 スキー・スノーボードの回転理論</li> <li>4 基本技術（スキー） ブルークボーゲン</li> <li>5 基本技術（スキー） ステッピングターン</li> <li>6 基本技術（スキー） パラレルターン</li> <li>7 基本技術（スキー） カービングターン</li> <li>8 基本技術（ボード） スケーティング</li> <li>9 基本技術（ボード） サイドスリップ</li> <li>10 基本技術（ボード） トラバース</li> <li>11 基本技術（ボード） ギルランデ</li> <li>12 基本技術（ボード） 連続ターン</li> <li>13 基本技術（ボード） カービングターン</li> <li>14 基本技術（ネイチャー）スノーシュー</li> <li>15 基本技術（ネイチャー）テレマーク</li> </ol> <p>(オフィス・デイ：水曜日、時間については要相談。事前にお知らせ下さい。)</p> |         |             |
| 評価基準<br>評価方法             | <p>冬季スキー実習（キロロ）の参加を原則。学内事前講義を含む、授業中の活動及び提出物（50%）、実技テスト（20%）、レポート（30%）、うち60%以上の評価を受けた者に単位認定する。（総合的に評価する）</p>  |         |             |
| 教科書                      | <p>教材プリントを講義中に配布</p>   |         |             |

教職英・教職情

| 科目名               | スポーツ 3  |         | 職名          | 教授   |
|-------------------|---|---------|-------------|------|
|                   |   |         | 教員名         | 輪嶋直幸 |
| 授業形態              | 実習  | 単位数(期間) | 2単位(2・3年後期) |      |
| 授業の到達目標及びテーマ      | <p>・かつての我が国のスポーツは、競技力向上の一辺倒の競技スポーツであった。しかし、スポーツは今や一部選手の独占物ではなくなり、国民すべての人々が楽しみたいと願っているものになりつつある。このことは「みんなのスポーツ」「いつでも、どこでも、だれでも」がスポーツを楽しみ、運動不足を痛感し、健康、体力を保つための自衛手段として、スポーツの大衆化はもはや動かしがたい事実である。本授業はレクリエーションスポーツを題材に生涯スポーツとなりうる実践を通して指導していく。</p>  |         |             |      |
| 授業概要              | <p>・1. ラジオ体操、みんなの体操 2. ストレッチング 3. エアロビクス(ダンス、ウォーキング、他) 4. ゴルフ型、テニス型、バレーボール型のレクリエーションスポーツ(フリスビーゴルフ、ミニテニス、ワンタッチバレーボール、他)</p>  |         |             |      |
| 授業計画<br>(オフィス・デイ) | <p>事前準備：体調管理をしっかりとしておくこと</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 オリエンテーション(レクリエーションスポーツとは)</li> <li>2 ラジオ体操第1・ラジオ体操第2</li> <li>3 みんなの体操(NHK)</li> <li>4 ストレッチング ①基本のストレッチ</li> <li>5 ストレッチング ②日常生活でのストレッチング</li> <li>6 ストレッチング ③美容と健康のためのストレッチング</li> <li>7 ストレッチング ④スポーツストレッチング</li> <li>8 エアロビクス ①ウォーキング</li> <li>9 エアロビクス ②リズムダンス</li> <li>10 エアロビクス ③縄跳び</li> <li>11 レクリエーション・スポーツ ①ゴルフ型</li> <li>12 レクリエーション・スポーツ ②テニス型</li> <li>13 レクリエーション・スポーツ ③バレーボール型</li> <li>14 レクリエーション・スポーツ ④バトミントン型</li> <li>15 実技テスト</li> </ol> <p>(オフィス・デイ：月曜日。時間については要相談。)</p> |         |             |      |
| 評価基準<br>評価方法      | <p>出席は3分の2以上を原則。授業中の活動60%及び提出物等40%、うち60%以上で総合評価の上、単位を認定する。</p>  |         |             |      |
| 教科書               | <p>(教科書) プリントを配布する<br/>(参考書) 特になし</p>   |         |             |      |

教職英・教職情

| 科目名                      | スポーツと健康 1  | 職名      | 教授          |
|--------------------------|--|---------|-------------|
|                          |  | 教員名     | 輪嶋直幸        |
| 授業形態                     | 演習   | 単位数(期間) | 2単位(1・2年前期) |
| 授業の到達目標<br>及びテーマ<br>授業概要 | <p>・個人が対応できる運動や身体活動の必要性、有効性から、健康問題を指導する。</p> <p>・トレーニングなど実践に役立つ内容を4つに分ける。</p> <p>1. トレーニングのための使えるスポーツサイエンス</p> <p>2. 試合で勝つための使えるスポーツサイエンス</p> <p>3. 健康なからだのための使えるスポーツサイエンス</p> <p>4. スポーツサイエンスの基礎知識</p>  |         |             |
| 授業計画<br>(オフィス・デイ)        | <p>事前準備スポーツや健康に関する情報を入手できるようにしておくこと</p> <p>1 オリエンテーション</p> <p>2 スポーツサイエンスの基礎知識 ①筋肉とエネルギー供給</p> <p>3 スポーツサイエンスの基礎知識 ②運動している最中の身体の変化</p> <p>4 スポーツサイエンスの基礎知識 ③トレーニングの原理・原則</p> <p>5 スポーツサイエンスの基礎知識 ④加齢とスポーツ</p> <p>6 トレーニングのための使えるスポーツサイエンス ①ウォーミングアップ</p> <p>7 トレーニングのための使えるスポーツサイエンス ②ストレッチング</p> <p>8 トレーニングのための使えるスポーツサイエンス ③スタミナ</p> <p>8 トレーニングのための使えるスポーツサイエンス ④サプリメント</p> <p>10 試合で勝つための使えるスポーツサイエンス ①コンディショニング</p> <p>11 試合で勝つための使えるスポーツサイエンス ②クレンジング</p> <p>12 健康な身体のための使えるスポーツサイエンス ①持久力</p> <p>13 健康な身体のための使えるスポーツサイエンス ②筋力</p> <p>14 健康な身体のための使えるスポーツサイエンス ③ダイエット</p> <p>15 健康な身体のための使えるスポーツサイエンス ④メディカルチェック</p> <p>(オフィス・デイ：月曜日。時間については要相談。)</p> |         |             |
| 評価基準<br>評価方法             | <p>出席は3分の2以上を原則。授業中の活動60%及び提出物等40%、うち60%以上で総合評価の上、単位を認定する。</p>   |         |             |
| 教科書                      | <p>(教科書) プリントを配布する</p> <p>(参考書) 特になし</p>   |         |             |

| 科目名                      | スポーツと健康 2  |         | 職名           | 教授      |
|--------------------------|--|---------|--------------|---------|
|                          |  |         | 教員名          | 輪 嶋 直 幸 |
| 授業形態                     | 演習   | 単位数(期割) | 2単位 (1・2年後期) |         |
| 授業の到達目標<br>及びテーマ<br>授業概要 | <p>・スポーツサイエンスの基礎知識を修得することを目標とする。</p> <p>・ 1. 心-スポーツには何よりも心技体が大切、しかしその心をどうやって鍛えたらいいかを指導する。</p> <p>2. 体-体を鍛えるといってもその方法は千差万別。どの方法が競技に適しているか指導する。</p> <p>3. 食-適切な食事を摂ることもトレーニングの一つだという意識を指導する。</p> <p>4. 医-ケガや故障は大部分は予防によって防ぐことができることを指導する。</p>  |         |              |         |
| 授業計画<br>(オフィス・デイ)        | <p>事前準備：健康に関する基本書を読んでおいてください</p> <p>1 オリエンテーション</p> <p>2 スポーツサイエンスの基礎知識 (心・体・食・医)</p> <p>3 こころ (MIND) ①スポーツ心理</p> <p>4 こころ (MIND) ②スポーツコミュニケーション</p> <p>5 こころ (MIND) ③アロマセラピー</p> <p>6 体 (BODY) ①ウエイトトレーニング</p> <p>7 体 (BODY) ②アクアトレーニング</p> <p>8 体 (BODY) ③スポーツ生理学</p> <p>9 食 (MEAL) ①スポーツ栄養学</p> <p>10 食 (MEAL) ②サプリメント</p> <p>11 食 (MEAL) ③ダイエット</p> <p>12 医 (MEDICINE) ①スポーツ医学</p> <p>13 医 (MEDICINE) ②カイロプラクティック</p> <p>14 医 (MEDICINE) ③リハビリとストレッチング</p> <p>15 まとめ・小テスト</p> <p>(オフィス・デイ：月曜日。時間については要相談。)</p> |         |              |         |
| 評価基準<br>評価方法             | <p>出席は3分の2以上を原則。授業中の活動60%及び提出物等40%、うち60%以上で総合評価の上、単位を認定する。</p>   |         |              |         |
| 教科書                      | <p>プリントを配布する</p>   |         |              |         |

教職英・教職情

|                   |  |         |             |
|-------------------|--|---------|-------------|
| 科目名               | 英語コミュニケーション  | 職名      | 准教授         |
|                   |  | 教員名     | 本城武則        |
| 授業形態              | 演習   | 単位数(期間) | 2単位(1・2年前期) |
| 授業の到達目標<br>及びテーマ  | <p>・基礎的な英会話を中心とした科目。中学・高等学校で学んで来た英語を「使える英語」の観点から会話表現を中心に基礎を固めたいと希望する学生には是非履修してもらいたい。英検2級レベルを到達目標とする。</p>   |         |             |
| 授業概要              | <p>・日常英会話の部分に焦点をあてて、これに必要な表現方法などを学ぶ。日常生活に必要な英語を取り上げるとともに、すでに日本語化している英語(カタカナ英語)なども本来の意味などを確認しながら、英語によるコミュニケーションについて興味を広げてもらいたい。</p>   |         |             |
| 授業計画<br>(オフィス・デイ) | <p>事前準備：自己紹介などできるように常に自己表現できるように</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 英会話のための心構え「なぜ日本人は英語が話せないか」</li> <li>2 英語を話す為に必要な基礎トレーニング 発声</li> <li>3 英語を聞くために必要な基礎トレーニング 言語的常識リスニング</li> <li>4 How to make introduction</li> <li>5 How to talk about Japan</li> <li>6 How to respect each other</li> <li>7 旅行に必要な英会話</li> <li>8 英語文法 基礎</li> <li>9 英語文法 応用</li> <li>10 きれいな発音のためのトレーニング</li> <li>11 How to get someone's attention, ask price, agree to buy</li> <li>12 会話に必要な現在完了の理解</li> <li>13 アメリカ英語とイギリス英語の面白い違い</li> <li>14 How to describe feelings</li> <li>15 How to enjoy speaking English</li> </ol> <p>(オフィス・デイ：火曜日。時間については要相談。)</p> |         |             |
| 評価基準<br>評価方法      | Speaking Test (40%) and attendance (60%)   |         |             |
| 教科書               | 『Moving On with English』 Eric Bray Nanun-do  |         |             |

|                   |  |         |                  |
|-------------------|--|---------|------------------|
| 科目名               | 英語コミュニケーション  | 職名      | 准教授              |
|                   |  | 教員名     | Jeffrey Trambley |
| 授業形態              | 演習   | 単位数(期間) | 2単位(1・2年後期)      |
| 授業の到達目標及びテーマ      | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ This course will focus on developing students' communication skills in English by presenting their ideas, experiences, knowledge, and original opinions in a variety of situations.</li> <li>・ Effective English communication skills are increasingly important for success academically, professionally, socially and personally. How effectively we communicate within groups or in front of an audience can have a great impact on our future. This course will help develop effective communication skills in both group and one to one situations.</li> </ul> |         |                  |
| 授業概要              |  |         |                  |
| 授業計画<br>(オフィス・デイ) | <p>事前準備</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 Giving a Self-introduction</li> <li>2 Unit 1: A New Club Member</li> <li>3 Presentation 1</li> <li>4 Unit 2: A Favorite Place</li> <li>5 Conversation 1</li> <li>6 Unit 3: A Prized Possession</li> <li>7 Presentation 2</li> <li>8 Mid-term Assessment</li> <li>9 Unit 4: A memorable Experience</li> <li>10 Telling a Story</li> <li>11 Unit 5: Show Me How</li> <li>12 Demonstration</li> <li>13 Unit 6: Movie Magic</li> <li>14 Conversation 2</li> <li>15 Review</li> </ol> <p>(Office day: Thursday)</p>  |         |                  |
| 評価基準<br>評価方法      | <p>Weekly Assessment and Attendance: 60%<br/> Mid-term Assessment: 20%      Final Assessment: 20%</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• Students who achieve at least 60% will be eligible for credit.</li> <li>• Students are required to attend a minimum of 2/3 of classes.</li> </ul>   |         |                  |
| 教科書               | <p><i>Present Yourself 1: Experiences</i>, by Steven Gershon<br/> Published by Steven Gershon, Cambridge University Press</p>  |         |                  |

教職英・教職情

| 科目名                      | 中国語コミュニケーション  | 職名      | 専任講師           |
|--------------------------|---|---------|----------------|
|                          |   | 教員名     | 楊 華            |
| 授業形態                     | 演習  | 単位数(期間) | 2単位(1・2年前期・後期) |
| 授業の到達目標<br>及びテーマ<br>授業概要 | <p>・授業の到達目標は「中国語の基礎会話」を習得すること。</p> <p>・テーマとして人とのコミュニケーションで最も必要な部分を取り上げる予定。</p> <p>・基礎的な中国語会話を中心に扱う。中国語を初めて履修しようとする学生諸君には、中国語Ⅰと併せて履修するとより効果が高まる。「挨拶」「お礼」「同意」「拒否」など、人とのコミュニケーションで最も必要な部分だけを取り上げる予定である。日常生活に即して、朝の挨拶からはじまり夜寝るまでに使われる最も基礎的な中国語を取り上げる。</p>   |         |                |
| 授業計画<br>(オフィス・デイ)        | <p>事前準備：教材をよく予習しておくこと</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 オリエンテーション</li> <li>2 出合いの挨拶</li> <li>3 別れのあいさつ</li> <li>4 お礼のことば</li> <li>5 おわびのことば</li> <li>6 返事のことば</li> <li>7 呼びかけ・許可を得ることば</li> <li>8 依頼・願望のことば</li> <li>9 あいづち・感情のことば</li> <li>10 場所やものを指すことば</li> <li>11 自己紹介をする</li> <li>12 数字の数え方</li> <li>13 日付の言い方</li> <li>14 まとめ(1)</li> <li>15 まとめ(2)</li> </ol> <p>(オフィス・デイ：金曜日、時間については要相談。事前にお知らせ下さい)</p> |         |                |
| 評価基準<br>評価方法             | <p>出席は3分の2以上を原則。試験40%、授業中の活動40%及び態度20%。うち60%以上を合格。定期試験を実施するので、必ず受験のこと。</p>  |         |                |
| 教科書                      | <p>教材プリントを講義中に配布</p>  |         |                |

|                          |   |         |             |
|--------------------------|---|---------|-------------|
| 科目名                      | かけがえのない地球   | 職名      | 兼任講師        |
|                          |   | 教員名     | 島村英紀        |
| 授業形態                     | 講義  | 単位数(期間) | 2単位(2・3年前期) |
| 授業の到達目標<br>及びテーマ<br>授業概要 | <p>・地球全体の成り立ちと「いま」を考えながら、人類が地球の将来に何が出来るのか、何をしなければならないかを考えていく。</p> <p>・地球は46億年前に誕生してから、常にその姿を変え続けてきた。その意味では地球は、いわば生きて動いている星である。地震や火山は、その生きている地球の息吹と言える。いまは地球に豊富にある水も空気も、じつは地球がその歴史の中で一度だけ作ってくれたものである。最近の人類の活動は地球全体に影響を及ぼすようになってきている。地球温暖化、オゾンホール、大気汚染、私たちがかかえる問題は多い。これらの問題を考えながら講義では、私たちにとって避けられない自然災害とどうつきあっていくか、地球の息吹としての視点からも考えていきたい。</p>   |         |             |
| 授業計画<br>(オフィス・デイ)        | <p>事前準備：教科書を事前によく読んでおくこと</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 太陽系宇宙の中の地球</li> <li>2 地球の誕生はいつ? どうやって?</li> <li>3 誰も住めない地球</li> <li>4 海と大気の誕生</li> <li>5 生物の誕生と進化</li> <li>6 恐竜の天下から滅亡まで</li> <li>7 人類の誕生</li> <li>8 地球の兄弟の星ではなにが違う?</li> <li>9 地球の内部を探るには</li> <li>10 地球の「聴診器」の使い方</li> <li>11 地球はタマゴだ</li> <li>12 プレーートの誕生と一生</li> <li>13 プレートが地震や噴火を起こす</li> <li>14 大気と水を探る</li> <li>15 地球科学の最前線</li> </ol> <p>(オフィス・デイ：木曜日11時～午後4時)</p> |         |             |
| 評価基準<br>評価方法             | <p>出席は3分の2以上が原則。授業中の活動40%、レポート60%。うち60%以上の評価のものに単位を認定するが、総合判断も加える。</p>  |         |             |
| 教科書                      | <p>「地球がわかる50話」島村英紀(岩波ジュニア新書)819円</p>  |         |             |

| 科目名               | 人間と安全保障   | 職名      | 兼任講師        |
|-------------------|---|---------|-------------|
|                   |   | 教員名     | 前川 清        |
| 授業形態              | 講義  | 単位数(期間) | 2単位(3・4年後期) |
| 授業の到達目標<br>及びテーマ  | <p>・「人間の安全保障（ヒューマン・セキュリティ）」の意義・重要性、および「国家（国民）安全保障」との関係について「人間の安全保障」の主要分野における現況と問題点の概要を理解させる。</p>  |         |             |
| 授業概要              | <p>・「人間の安全保障」が現代日本のブランド外交の一つであることを念頭に、主として下記の内容について講義をする。</p> <p>その際、国内外情勢に関係する具体例の活用および人間の安全保障における「異文化理解の重要性」の強調に留意する。</p>   |         |             |
| 授業計画<br>(オフィス・デイ) | <p>事前準備：時事問題について関心を持って授業に出席すること</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 人間の安全保障の意義および重要性</li> <li>2 人間の安全保障の定義と国家（国民）安全保障との関係</li> <li>3 「幸福の条件」と人間の安全保障の関係</li> <li>4 各種紛争（戦争・テロなど）と人間の安全保障</li> <li>5 防衛・防災・防犯・防疫・防貧と人間の安全保障</li> <li>6 人種・人権・難民問題と人間の安全保障</li> <li>7 在日外国人と在外日本人（旅行者を含む）の人間の安全保障</li> <li>8 国民保護法と人間の安全保障の関係</li> <li>9 人間の安全保障と防災・防疫</li> <li>10 人間の安全保障と防犯・プライバシー問題</li> <li>11 食糧・貧困問題等と人間の安全保障</li> <li>12 宗教・文化・教育問題と人間の安全保障</li> <li>13 老人・児童・女性問題と人間の安全保障</li> <li>14 国際化・情報化時代の「異文化理解」と人間の安全保障</li> <li>15 まとめ</li> </ol> <p>(オフィス・デイ：金曜日、時間は調整による)</p> |         |             |
| 評価基準<br>評価方法      | <p>授業中の活動状況40%・試験40%・レポート等10%・受講態度10%を成績評価の点数配分の基準として総合的に評価する。</p>  |         |             |
| 教科書               | <p>「地理統計」帝国書院 400円、他に適宜レジメ配付</p>  |         |             |

| 科目名                      | 女性論  | 職名      | 兼任講師        |
|--------------------------|--|---------|-------------|
|                          |  | 教員名     | 高嶋めぐみ       |
| 授業形態                     | 講義   | 単位数(期間) | 2単位(3・4年集中) |
| 授業の到達目標<br>及びテーマ<br>授業概要 | <p>女性には女性特有の課題があり困難もある。従来どちらかという男性中心の社会ではこれらが等閑視されがちであったことを否めない。女性学は長い間見落とされてきたこうした問題に光を当てる。</p> <p>女性をめぐるさまざまな問題を実態面と法的側面より分析し、社会の健全な発展に資するものである。</p>   |         |             |
| 授業計画<br>(オフィス・デイ)        | <p>事前準備：日頃から社会現象に目を向け、現実には生起している問題を把握すること。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 女性問題の定義・理念</li> <li>2 ジェンダー (1) 文化、社会</li> <li>3 ジェンダー (2) 法、教育</li> <li>4 人権 (1) 男女平等の現状と問題点</li> <li>5 人権 (2) 教育</li> <li>6 人権 (3) 家族と男女平等</li> <li>7 人権 (4) 暴力</li> <li>8 ドメスティック・バイオレンス (1) 概要</li> <li>9 ドメスティック・バイオレンス (2) 法</li> <li>10 ドメスティック・バイオレンス (3) 各国の状況</li> <li>11 ドメスティック・バイオレンス (4) デートDV</li> <li>12 セクシャル・ハラスメント (1) 定義</li> <li>13 セクシャル・ハラスメント (2) 法</li> <li>14 セクシャル・ハラスメント (3) 各国の状況</li> <li>15 まとめ</li> </ol> <p>(オフィス・デイ：集中講義期間中。時間については要相談。)</p> |         |             |
| 評価基準<br>評価方法             | <p>3分の2以上の出席を原則。授業中の活動(10%)及び小レポート(90%)、うち60%以上の評価を受けた者を単位認定する。</p>  |         |             |
| 教科書                      | <p>(教科書)教科書は使用せず、関連諸資料を適宜配布する。<br/>(参考書)必要に応じて講義の中で文献を紹介する。</p>  |         |             |

| 科目名                      | ボランティア   | 職名      | 兼任講師        |
|--------------------------|--|---------|-------------|
|                          |  | 教員名     | 舞田敏彦        |
| 授業形態                     | 講義   | 単位数(期間) | 2単位(1・2年後期) |
| 授業の到達目標<br>及びテーマ<br>授業概要 | <p>・人々の共同・共存生活が成り立つには、ボランティア活動が不可欠である。本講義では、ボランティア活動に関する基本的な理解を図ることを目的とする。</p> <p>・本講義では、ボランティア活動の概念や歴史について講じた後、いくつかの側面から、ボランティア活動の実際や、それを下支え（指揮）する理論についてみていく。実践と理論のバランスに配慮したい。適宜、映像資料を用いたり、受講生諸君の小作文をもとにディスカッションをするなど、内容にメリハリを持たせるようにしたい。</p>   |         |             |
| 授業計画<br>(オフィス・デイ)        | <p>事前準備：各種メディアを通して時勢を把握のこと</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 ボランティアの概念</li> <li>2 ボランティアの歴史</li> <li>3 ボランティア団体</li> <li>4 ボランティア行政</li> <li>5 教育とボランティア</li> <li>6 災害とボランティア</li> <li>7 子どもとボランティア</li> <li>8 高齢者とボランティア</li> <li>9 障害者とボランティア</li> <li>10 環境とボランティア</li> <li>11 国際ボランティア</li> <li>12 セックスボランティア</li> <li>13 ボランティアをめぐる意識と行動</li> <li>14 ボランティア振興のための課題と方策</li> <li>15 まとめ</li> </ol> <p>(オフィス・デイ：金曜日、時間については相談して決める。)</p> |         |             |
| 評価基準<br>評価方法             | <p>3分の2以上出席原則。授業への取り組み及び授業後（毎回）に提出する小作文50%</p>   |         |             |
| 教科書                      | <p>使用しない</p>   |         |             |

| 科目名               | 現代企業と職業  | 職名      | 助教             |
|-------------------|--|---------|----------------|
|                   |  | 教員名     | 柴田有祐           |
| 授業形態              | 講義   | 単位数(期間) | 2単位(1・2年前期・後期) |
| 授業の到達目標<br>及びテーマ  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業の到達目標は、現代企業におけるキャリア形成の過程を理解することによって、卒業後どのような仕事に就きどのように生きていくかについて具体的なビジョンを持てるようにすることである。</li> </ul>   |         |                |
| 授業概要              | <ul style="list-style-type: none"> <li>・大学卒業後、自分はどのように生計を立てていくのであろうか？卒業後の人生に大きな影響を及ぼす「仕事」をテーマに、様々なタイプの労働者（働く人）のキャリア形成や日本の雇用制度についての解説を行う。</li> </ul>  |         |                |
| 授業計画<br>(オフィス・デイ) | <p>事前準備：下記の参考書を事前に読んでおくこと（対応箇所は事前にお知らせします）</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 ガイダンス</li> <li>2 労働者の技術・能力</li> <li>3 大企業のブルーカラー</li> <li>4 大学卒のホワイトカラー（1）キャリアの形成</li> <li>5 大学卒のホワイトカラー（2）選抜の方法と昇進</li> <li>6 労働者の賃金（1）賃金上昇の国際比較</li> <li>7 労働者の賃金（2）賃金を決定する要素</li> <li>8 長期雇用と解雇（1）長期雇用の国際比較</li> <li>9 長期雇用と解雇（2）解雇</li> <li>10 なぜ長期雇用が行われるか（1）人的資本理論と内部労働市場論</li> <li>11 なぜ長期雇用が行われるか（2）不完全情報の経済学</li> <li>12 中小企業の労働者</li> <li>13 女性の労働（1）日本の女性労働</li> <li>14 女性の労働（2）男女間賃金格差</li> <li>15 非正規雇用労働者—高年労働者とフリーター—</li> </ol> <p>（オフィス・デイ：水曜日。時間については要相談。）</p> |         |                |
| 評価基準<br>評価方法      | <p>原則として、出席が3分の2以上の者を評価の対象とする。授業中に行う小テスト20%、定期試験80%、そのうち60%以上の評価を受けた者の単位を認定する。</p>   |         |                |
| 教科書               | <p>（教科書）プリントを配付する。<br/>（参考書）小池和男「仕事の経済学」第3版、東洋経済新報社、2005年。</p>   |         |                |

| 科目名                      | リカレント教育論   | 職名      | 兼任講師        |
|--------------------------|--|---------|-------------|
|                          |  | 教員名     | 舞田敏彦        |
| 授業形態                     | 講義   | 単位数(期間) | 2単位(1・2年前期) |
| 授業の到達目標<br>及びテーマ<br>授業概要 | <p>リカレント教育とは、学校教育を修了し、社会に出た者が、再び大学や成人教育機関などで学習することをいう。生涯学習社会といわれる今日、このような教育形態は珍しいものではなくなっている。そもそも、教育とは人生の初期の間だけで完結するものではない。人は、生涯にわたって学び続ける存在である。本講義では、リカレント教育を切り口にして、人々の生涯学習を必要ならしめる社会的背景、生涯学習の実態、さらには今後の生涯学習社会の展望などについて論じることとする。</p>  |         |             |
| 授業計画<br>(オフィス・デイ)        | <p>事前準備：各種メディアを通して時勢を把握のこと</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 わが国の学習人口</li> <li>2 生涯学習の思想</li> <li>3 生涯発達の心理学</li> <li>4 成人期における知的能力の変化</li> <li>5 人生周期の変化</li> <li>6 学歴社会から学習社会へ</li> <li>7 わが国の生涯学習政策</li> <li>8 リカレント教育の思想</li> <li>9 リカレント教育の実態①—統計的検討—</li> <li>10 リカレント教育の実態②—実例的検討—</li> <li>11 リカレント教育の効果</li> <li>12 諸外国のリカレント教育</li> <li>13 リカレント教育振興のための課題と方策</li> <li>14 生涯学習社会の実現に向けて</li> <li>15 まとめ</li> </ol> <p>(オフィス・デイ：金曜日、時間については相談して決める。)</p> |         |             |
| 評価基準<br>評価方法             | <p>3分の2以上出席原則。授業への取り組み及び授業後(毎回)に提出する小作文50%</p>   |         |             |
| 教科書                      | <p>使用しない</p>   |         |             |